

令和3年度 作物栽培管理情報第6号

令和3年10月発行

大分県中部振興局 集落営農・水田畑地化班

1. 令和4年産麦 1. 播種前～播種期の管理作業

1) 播種前の作業 ～収量・品質向上は土壌改良と排水（湿害）対策の徹底から！～

(1) 土壌改良

①酸度矯正

(参考) 矯正後のpH=6.2を目標とした施用量 ※粘質～壤質土壌の場合

土壌改良材名	圃場pH別の施用量 (kg/10a)			
	<4.0	<4.5	<5.0	<5.5
ミネラルG・ケイカル	413	295	177	83
炭カル	350	250	150	70
苦土石灰	336	240	144	67

※施用量 (kg/10a) は ①ミネラルG・ケイカルは炭カル×1.18倍
②苦土石灰は炭カル×0.96倍

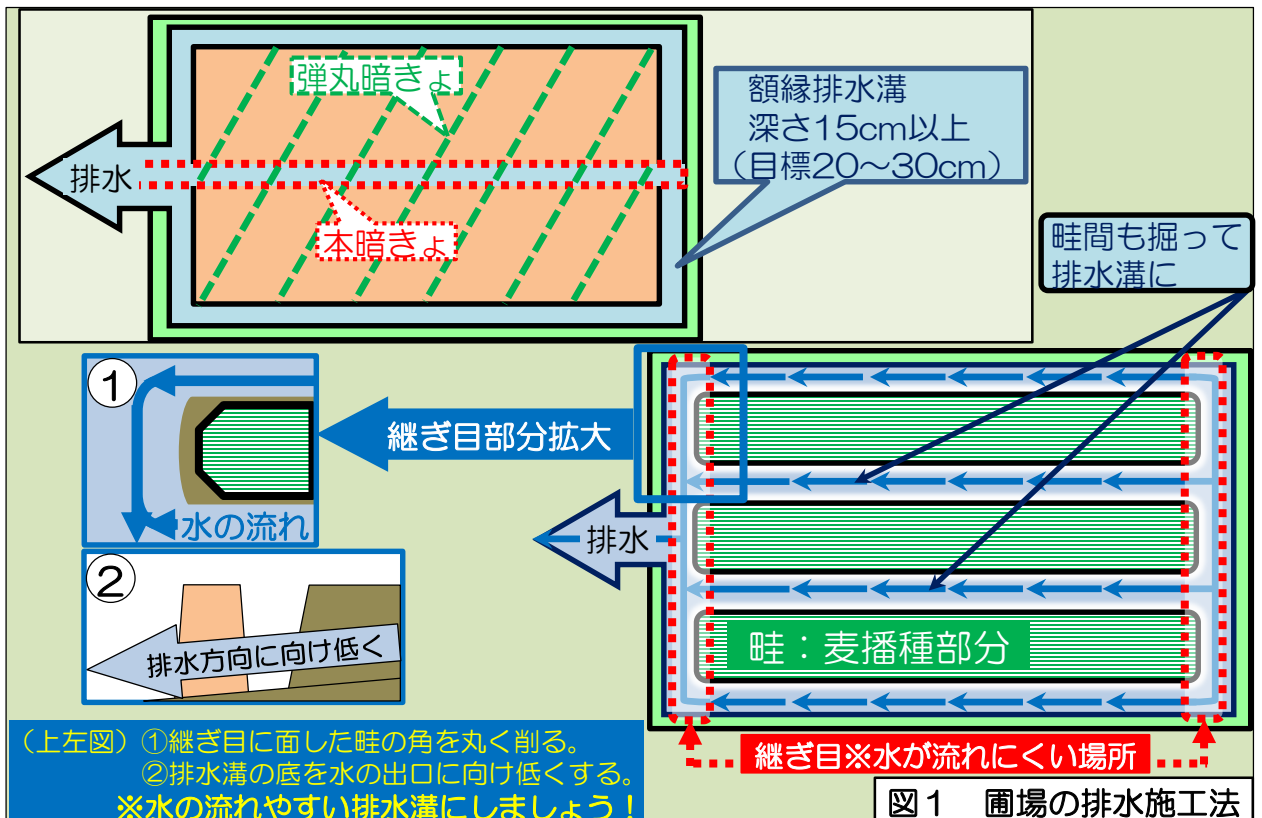
②有機物施用 (参考) 麦作圃場への有機物施用例

有機物名	施用量/10a	施用時期、方法
牛糞堆肥	1.5～2 t	耕起前、圃場全面に均一散布

ポイント

- ・麦圃場の好適pHは①裸麦6.5以上 ②小麦6.0以上です。収量が低い場合は栽培前に圃場のpHが適正か確認しましょう。
- ・土壌改良材を耕起時に施用すると、効率的に作業出来ます。
- ・麦1作で施用できる土壌改良材は300kg/10aが限度ですが、肥料と異なり1年で消費されることはありません。300kg/10a以上施用する場合は、2～3年に分け耕起する時に施用を続けてください。
- ・地力の低下が収量・品質を落とします。有機物は毎年施用しましょう。

(2) 排水（湿害）対策



ポイント

- ・排水性の良くない圃場には、排水溝に加え弾丸暗渠を施工しましょう。
- ・栽培期間中は額縁及び畝間の排水溝を点検し、崩れや詰まりを補修し収穫まで良好な排水性を維持しましょう。
- ・播種前の耕起、整地は雨を避け、なるべく播種直前に行いましょう。

裏面へ

2) 播種作業 ～栽培前半の、生育の良否はここで決まります～

(1) 播種適期・播種量

(参考) 地帯区分(標高別)・麦種別の播種適期及び播種量

地帯区分 (標高別)	麦種	播種適期 (期間)	11月		12月
			中旬	下旬	上旬
平坦～準平坦地 (標高200m以下)	裸麦	適期	15日----->10日		
	小麦	最適期	20日～25日		
中山間地 (標高200m以上)	裸麦	適期	10日----->25日		
	のみ	最適期	15日～20日		
播種量/10a	裸麦	適期播種 6～8kg			
	小麦	播種遅れ 8～10kg ※適期播種の20～30%増し			

ポイント

- ・降雨等による遅れや中断が生じないよう、気象情報に注意し天候の良い時に速やかに作業できるよう準備しておきましょう。
- ・生産物の品質維持と適正な流通のため、種子は毎年購入しましょう。
- ・種子消毒も、忘れず行いましょう。

(2) 基肥の施用

①成分量 (全麦種共通)

(参考) 施肥区分及び成分量(共通)※(内)は醤油用小麦の場合

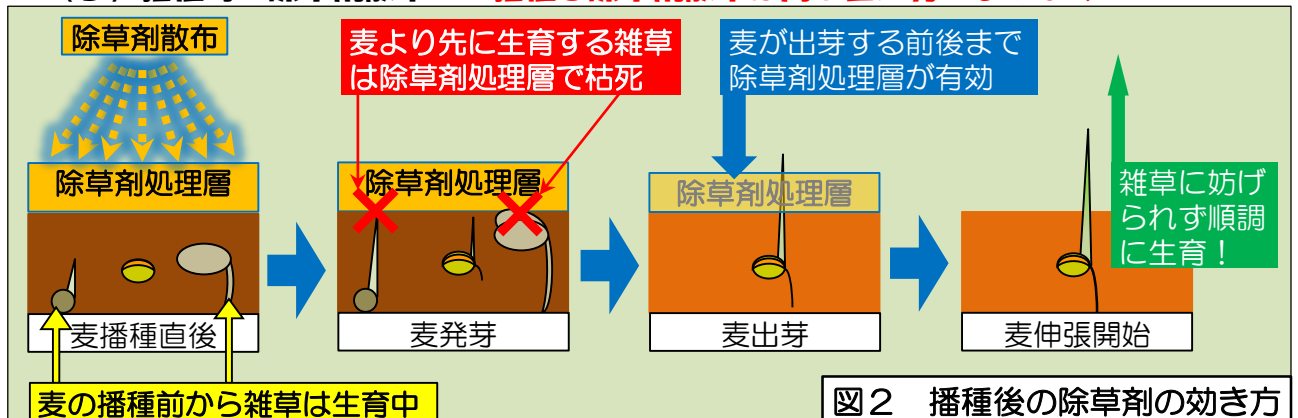
成分量(kg/10a)	基肥	分けつ肥	穂肥	(実肥)	計
窒素(N)	5	2	3(5)	(6)	10(16)
リン酸(P ₂ O ₅)	8	0	0	(0)	8
カリ(K ₂ O)	5	1	2	(0)	8

②施用量 化成肥料14-14-14で40kg/10a

③施用時期 播種同時

ポイント 基肥は適切な量を施用し、初期生育を確保しましょう。

(3) 播種時の除草剤散布 ※播種と除草剤散布は同じ日に行いましょう!



(参考) 播種期除草剤の例 ※播種同時、または播種直後すぐに散布すること!

薬剤名	使用上の注意		散布時の注意	
	使用時期	使用量/10a	希釈水量	回数
リベレーターフロアブル	播種後～麦3葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	60～80ml	100L	1回
リベレーターG	播種後～麦2葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	4～5kg	—	

ポイント

- ・播種後の除草剤散布が遅れるほど雑草が広がりやすくなります。播種前に種子、基肥、除草剤の3つを揃え、同じ日に作業を完了させるよう心掛けましょう。
- ・播種時の除草剤は、比較的新しい効果の高いものを散布しましょう。
- ・元々雑草が多く栽培期間中も発生し続ける場合は、麦生育期の除草剤も播種前に準備しておきましょう。

お問い合わせ先：電話097-506-5791

ホームページ：http://www.pref.oita.jp/soshiki/11604/saibaikanrizyohou.html